

会 議 要 旨

会議名称	令和4年度第2回加古川市環境市民会議
開催日時	令和4年10月21日（金）午後2時から午後3時30分まで
開催場所	加古川市役所北館（旧青少年女性センター）4F 大会議室
出席者	<p><委員>（出席者：12名）（敬称略）</p> <p>グループめだか：守家</p> <p>はりまシェアリングネイチャーの会：石田</p> <p>播磨ぼかし研究会：石堂</p> <p>前川建設株式会社 専務取締役：前川</p> <p>水辺に学ぶプロジェクト：畠山</p> <p>行常しあわせの森づくり協議会：藤本</p> <p>大阪ガス株式会社 エナジーソリューション事業部 業務部 地域共創第2チーム 支配人補佐：篠倉</p> <p>加古川市環境保全研究会：松井</p> <p>関西電力送配電株式会社兵庫支社 リーダー：佐藤</p> <p>兵庫県環境部 環境政策課 温暖化対策官：濱田</p> <p>加古川市環境部 次長：新濱</p> <p>加古川市教育委員会 教育指導部 学校教育課 副課長：城</p> <p><事務局>（出席者：7名）</p> <p>環境部 部長 竹中</p> <p>加古川市環境部環境政策課 課長 福山</p> <p>加古川市環境部環境政策課 副課長 藤本</p> <p>加古川市環境部環境政策課 環境政策係長 畑</p> <p>加古川市環境部環境政策課 環境政策係 高橋・神田・松本</p>
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 報告事項</p> <p style="padding-left: 20px;">（1）加古川市の温室効果ガス排出量について</p> <p style="padding-left: 20px;">（2）令和3年度加古川市の施策取組実績について</p> <p>4 閉会</p>

配付資料	<ol style="list-style-type: none"> 1 加古川市環境市民会議委員名簿（裏面に出席者名簿） 2 加古川市の温室効果ガス排出量について 3 参考資料 新積算システムによる算定結果 4 環境の概要（令和4年度版）※配布済 5 令和3年度環境教育・啓発の実施結果
<p>会議内容 （会長）</p> <p>（事務局）</p> <p>（会長）</p> <p>（事務局）</p> <p>（委員）</p> <p>（事務局）</p> <p>（事務局）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長挨拶 3 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> （1）加古川市の温室効果ガス排出量について <ul style="list-style-type: none"> ※エネルギー管理指定工場を除外して算定 ①2018年度の温室効果ガス総排出量 2005年度比） <ul style="list-style-type: none"> ・排出係数変動の場合、温室効果ガス総排出量は14.0%の削減 ・排出係数固定の場合、温室効果ガス総排出量は13.4%の削減 ②削減目標の達成状況（2005年度比） <ul style="list-style-type: none"> 2020年度までに6%削減という目標に対して、14.0%削減し、排出係数を固定した場合は、13.4%削減しており、目標を達成した ③2018年度の部門別二酸化炭素排出量 2017年度比） <ul style="list-style-type: none"> 産業部門、民生家庭部門、民生業務部門、運輸部門のいずれも排出量は削減した ④新積算システムによる算定結果 <ul style="list-style-type: none"> 新積算システムでは、より精度を高めるため、旧システムより多いデータを根拠に算定している。しかし、現時点では、データが不揃いであるため、排出量は多く算定されている。2018年度以前の数値を算定した場合、速報値では排出量が多くなるが、確定値では減少するものと認識している <p>2019年度については、データが不揃いの状態だから数値が上昇しているという認識でよいか。</p> <p>そのとおり。旧システムについても速報値ということで上昇しており、同じ要因である。</p> <p>旧システムと新システムの違いは。</p> <p>旧システムより精度を高めるために、国や県などの様々なデータを用いて算出している。そのため、計算方法などが異なっているという認識で頂ければと思う。</p> <p>補足説明する。旧システムでは使用電力の排出係数を関西電力のみで計算していたが、数ある新電力会社の多様な排出係数の影響を除外するため、新システムにあっては、1kWを創り出す際の炭素の排出量を全国の値の平均から用いるなど、計算の方法</p>

	<p>が変わっており、より精度が高く、現実的な値になっていると考えてもらいたい。</p>
(会長)	<p>人口が減少している現状を踏まえると、温室効果ガスの削減については取組の効果よりも単純に排出の源となる、人口が減ったからではないか。</p>
(事務局)	<p>人口は減少しているが、世帯数は増加しており、世帯ごとで家電等による電気使用量が増加するなどして、均衡している。</p> <p>(2) 令和3年度加古川市の施策取組実績について</p> <p>①実施状況写真を用いて、環境教育・啓発の取組結果の報告</p> <p>②「環境の概要」を用いて、環境配慮率先実行計画の結果の報告</p>
(委員)	<p>環境の概要についての報告は、市役所としての取組結果なのか、それとも市全体なのか。また、エコカー導入についても公用車についての結果なのか。環境教育については、環境政策課としての取組が挙げられているのか、それとも市民や事業所に報告を依頼した結果なのか。啓発事業については、出前講座が小学校は2校のみで、ほかの学校では実施していないのか。</p>
(事務局)	<p>環境の概要のなかで、環境配慮率先実行計画について報告した。これについては、市役所としての取組である。環境に配慮した取組を市民に啓発しているが、その前に市役所として率先した環境への取組が必要であり、そのための計画である。また、エコカー導入については、公用車についての取組である。啓発事業については、市役所が主体となって実施したものである。出前講座は小学校について2校のみで、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、講座の実施が難しかったという実情がある。現在は、徐々に依頼も増えつつあり、事業を進めていきたいと考えている。</p>
(会長)	<p>新型コロナウイルス感染症対策で電気使用量が増大とあったが、ワクチン接種会場運営などの影響という認識でよいか。</p>
(事務局)	<p>そのとおり。接種会場では、感染症対策のために、窓や扉を開放しながら空調を入れていたため、電気使用量は増加した。</p>
(委員)	<p>C02削減の取組について、例えば姫路市の水素の取組に協調するなどしている。加古川市独自のC02削減の取組に、当社のグループとして協力したいと考えている。</p>
(会長)	<p>水素の取組とは具体的にどのようなものか。</p>
(委員)	<p>火力発電所の燃料として水素を混焼するなど、将来的な構想と検証を行っている段階である。水素自動車の普及やサプライチェーンの拡大を描いている。</p>

<p>(副会長)</p>	<p>2050年カーボンニュートラルに向けての官民一体の取組が目立つ。関電の株主総会では、食品ロスへの取組、再生困難な廃プラからのメタノール取り出し、二酸化炭素排出量取引への準備などが取り上げられていた。他方、兵庫県の行う水素への取組に、大手重工会社をはじめ、企業の参画があるほか、金融機関も持続可能な経営を目指す企業への融資などを聞いている。しかし、ウクライナ危機による天然ガス供給不足から、2050年のカーボンニュートラルは達成できないのではないかとという声が上がっている。これを好機と捉え、エネルギーの地産地消など、海外依存を脱却へ進むのではと考える。兵庫県においても、地域の特性を活かした取組が進んでいるようだが、我々も環境市民として脱炭素社会を応援し、できることから取り組みはじめ、より一層の環境活動を楽しみながら行いたいと考える。</p>
<p>(委員)</p>	<p>会社として省エネルギー、脱炭素を推進しており、加古川市とも環境啓発活動を連携し、省エネ機器の普及促進を通して脱炭素に貢献している。また、メタネーションの技術開発も進め、さらなる脱炭素を目指している。他方、自然災害に対応した事業継続支援のシステム構築なども進めている。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>可能な限りエネルギーを再生可能エネルギーに変えていくこと、環境への適応などを念頭に、様々な企業や団体と連携を図っていききたいと考える。</p>
<p>(委員)</p>	<p>幼稚園の先生方がネイチャーゲームで学んだことを園へ持ち帰り、園庭でも自然体験ができるよう、加古川市と協働して春に啓発事業を行っている。季節の良いときに、リーダーの育成を進めていきたい。小学校についても同様にして行っていきたい。</p>
<p>(委員)</p>	<p>緑のカーテンの普及啓発活動に取り組んだが、楽しみながら活動できたことに意義を感じた。夏の親子環境学習を実施した際、新型コロナの影響などもあり参加者が少なかったという課題はあったが、子どもたちにプラスチックごみの問題を伝えることができた実感している。</p>
<p>(委員)</p>	<p>市民会議は、市民が混じってガヤガヤと議論する場であってほしい。もっと市民を巻き込んで、こういった環境活動をしたいなどがあれば、市民会議のメンバーでそれを後押しするようなことをできればよいのではないかと考える。実際に市民を巻き込んで、ごみの減量などは達成している。環境への取組に人々と協働していくのは難しいとは思いますが、その必要があると感じる。環境教育のモデル校などもできれば理想的ではないだろうか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>市民会議というのが、市民や関係企業、行政などが協力していく場であり、民生家庭部門の排出量削減へのムーブメントをこの場から起こしていきたいと考えている。温室効果ガス削減に、市を挙げて取り組む姿勢として、ゼロカーボンシティ宣言を表明した。そのステップとして、この会議のあり方を考えていきたい。</p>

<p>(委員)</p>	<p>エネルギーを消費する側の企業である立場であるが、省エネ法に定められたエネルギー使用の削減を進めているが、苦勞をしている。新技術の開発とその利用が可能になるまで、非常に厳しい状況である。新社屋の建設を予定しているが、環境に配慮した建物を計画している。</p>
<p>(委員)</p>	<p>温室効果ガス排出量の削減、再生可能エネルギーの普及拡大に努めている。エネルギーの地産地消の社会を目指したり、バイオマス技術などの理解を広げるワークショップ開催などにも取り組んでいる。</p>
<p>(委員)</p>	<p>環境について市民に身近に感じてもらうことが重要。市民が、温室効果ガスを削減することが自らにとってどんな影響があるのか上手く捉えてもらえるよう考えなければならない。環境への知識を連鎖させていく、情報交換のすそ野を広げる術を考えていく必要がある。</p>
<p>(委員)</p>	<p>小学校3年生は環境体験学習を受けているが、大きな環境問題を子どもたちが自分事として捉えるのは難しい。身近な事象に置き換えて説明するなど教員は工夫を重ね、学習を進めているが、今後も指導をいただければと思う。</p> <p>4 閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>